２００８年１０月１６日
在デトロイト総領事館

１０月１６日、デトロイトフリープレス紙は「Some U.S. airport are OK with guns in terminals」と題し、米国の主要空港のいくつかはけん銃の持ち込みを許可しているという記事を掲載しました。参考に概要を以下のとおりご案内します。

１．米国における航空機利用状況は９．１１以後に変化し、乗客には靴を脱ぎ、パソコンを取り出し、液体類を透明のビニール袋に入れることを強制しています。それにもかかわらず、いくつかの空港では銃弾を装填したけん銃を保安検査場入口まで持ち込むことは全くの合法とされている。ＡＰ通信の調査によれば米国の２０の主要空港の内、Detroit、Philadelphia、Phoenix、Minneapolis/St. Paul、Dallas/Ft. Worth、Los Angeles、San Franciscoの７つの空港はけん銃所持許可があればターミナルの一般公開部分にけん銃を持ち込むことが出来きます。
２．テロリスト対策の専門家は、「これは見逃すことが出来ない保安上の欠陥であり、空港の労働者、乗客、送迎者を危険にさらしている。」とし、その他の機関では、「ターミナルの保安検査場に至らない部分は、その他の公共の場所とかわりはなく特別な制限もない。」とし、フィラデルフィア警察の警部補は「ショッピングモールやその他の鉄道駅とかはりはない。」としています。
３．米国連邦法ではいかなる空港においてもけん銃を携帯したまま保安検査場を通過することは違法となっていますが、米国運輸保安局（ＴＳＡ）広報官は「ＴＳＡは（保安検査場に至る前の）空港におけるけん銃の取扱について判断する立場になく、連邦法によりけん銃持ち込みを禁止するための権限は与えられていない。」としています。
４．しかし、専門家は、これらの空港がけん銃の持ち込みを禁止したとしても検査をすることは出来ないであろうと予測しています。空港に、さらに検査場を増やすようなことをしても、米国の混雑する空港においてはそれが機能しないからです。
５．ミネアポリスの銃使用インストラクターは「遵法的な人々は、けん銃を所持していようがいまいが遵法的である。」と述べています。けん銃の持ち込みを許可しているいくつかの空港は、顧客の習慣に合わせようと努力しています。
　最後にデトロイト空港広報官の「我々ミシガンの人々は銃が好きです。」というコメントにより記事を締めくくっています。